

## 第2号議案-事前配布資料4 令和4年度事業計画(案)について

凡例

—・・・ゼロ予算で検討

◆南信州地域公共交通計画に基づく実施事業 【南信州地域公共交通計画 P15～19 (2)実施事業 イ.実施事業】

実施事業	事業名	事業概要	取組主体	R4年度 予算案	R4年度の取組想定	備考															
(7) 移動不便地区の解消	移動不便地区状況調査	南信州地域内の移動不便地区の状況を継続して把握する。	南信州地域交通問題協議会 (南信州広域連合)	—	・各市町村とともに毎年度状況把握を行う。 ・市町村と連携し、移動不便地区数の減少につながるよう、側面的支援を行う。	・高校生の通学、高齢者の通院にかかる移動不便地区の調査 令和2年度の状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>地区数</th> <th>公共交通不便集落のある地区数</th> <th>うち代替手段のある地区数</th> <th>移動不便地区数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高校通学</td> <td>107</td> <td>25</td> <td>2</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>通院</td> <td>107</td> <td>31</td> <td>14</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table>	目的	地区数	公共交通不便集落のある地区数	うち代替手段のある地区数	移動不便地区数	高校通学	107	25	2	23	通院	107	31	14	17
目的	地区数	公共交通不便集落のある地区数	うち代替手段のある地区数	移動不便地区数																	
高校通学	107	25	2	23																	
通院	107	31	14	17																	
(4) 運行態様、運行経路、ダイヤ、運賃等の見直し	わかりやすい運賃体系	路線バスにおける重複区間の運賃不統一はあるが、各市町村の運賃体系を尊重しつつ利用者が混乱しないような分かりやすいルール化をめざす。	南信州地域交通問題協議会、市町村、地域公共交通会議	—	・利用者に分かりやすいルールや案内の研究・検討を引き続き進める。																
(エ) 情報提供、啓発	各路線のナンバリング化	利用者に分かりやすい表示とするため、乗合タクシーを含む基幹路線、准基幹路線、支線にナンバリング、カラーリングを実施し、車両の方向幕、時刻表等と連動させる。	南信州地域交通問題協議会、市町村、地域公共交通会議	—	・乗合タクシーやデマンドタクシーへのナンバリングについて検討した結果、ナンバー分けではなく、色で判断できるように整備する方向で整理を行っていく。 ・すでに整備された広域バス、市町村バスのナンバリングについて見直す際には、ルールに基づき変更を行う。	・広域バス、市町村バスのナンバリングについて、H27年度から研究・検討を開始し、令和元年度に車両等のLED方向幕やマグネットシートの整備が概ね完了した。															
	統一的な時刻表フォーマットづくり	それぞれの路線ごとに時刻表の体裁が異なり分かりにくいため、南信州地域の標準的な時刻表フォーマットを作成し、提案する。	南信州地域交通問題協議会 (南信州広域連合)	—	・関係組織と研究・検討を適宜行う。																
	結節点停留所デザインの統一化	結節点停留所においては、ナンバリング、カラーリングを反映した分かりやすい時刻表、路線図の掲示を行う。	南信州地域交通問題協議会 (南信州広域連合)	400,000	・結節点停留所の現状把握を行い、利用者に分かりやすい乗り継ぎ案内整備を進める。																
	公共交通ポータルサイトによる情報発信	南信州地域の公共交通ポータルサイトを充実させ、利用者に使いやすく、分かりやすい情報提供に努めるとともに、公式Twitter等の適時適切な情報更新に努める。	南信州地域交通問題協議会 (南信州広域連合)	230,000	・ポータルサイトの管理運営やSNSでの情報発信を行う。 ・地元の人にはもとより来訪者にも分かりやすい情報提供サイトとなるよう研究を行う。 ・他のメディア媒体でも公共交通の利用について発信していく。																
	広報誌による啓発	南信州広域連合広報誌の公共交通啓発コーナーにおいて、公共交通の認知度向上を図る。	南信州地域交通問題協議会 (南信州広域連合)	—	・広報誌に認知度向上につながる情報を発信する。																
	乗り方教室の開催	高齢者、児童・生徒を対象としたJR飯田線、路線バス等の乗り方教室イベントを開催する。	南信州地域交通問題協議会、交通事業者、市町村、地域公共交通会議	—	・乗り方教室で活用するグッズ等を制作する。(開催する場合は新型コロナウイルス感染症対策を講じる)																
	公共交通に親しむイベントの開催	住民を対象としたイベントと連携する等して、公共交通に親しむイベントやバスガイド体験等、公共交通を身近に感じられるイベントを開催する。	南信州地域交通問題協議会、交通事業者、市町村、地域公共交通会議	50,000	・イベント(南信州環境メッセ)に参画し、公共交通を身近に感じてもらう。(開催する場合は新型コロナウイルス感染症対策を講じる)																
(オ) 市町村負担の縮減	補助金の活用	運行、車両購入等に対する国の地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統確保維持費国庫補助金、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)をはじめとした補助金を効果的に活用する。	市町村、地域公共交通会議、南信州協議会	—	・新制度では補助金申請主体となり、加えて補助金の受け皿になるため、体制の整備を行う。 ・R5年度(R4.10～R5.9)については、南信州地域交通問題協議会で集約して申請を行う。 ・段階的な事務の集約化を協議検討する。																

(カ) 事業者支援	二種免許取得支援	普通二種免許の取得に向けた支援の仕組みを導入する。	南信州地域交通問題協議会、タクシー協会	—	・5月の道交法の一部の改正を踏まえ、関係組織と研究・検討を進める。	
	貨客混載の導入	公共交通(タクシーを含む)事業者の新たな事業展開の一つとして過疎地域において導入が可能になった路線バス、タクシーによる貨客混載の検討を行い、必要に応じて導入を進める。 【過疎地域：旧上村、旧南信濃村、阿南町、旧浪合村、旧清内路村、平谷村、根羽村、壳木村、天龍村、泰阜村、大鹿村】	バス事業者、タクシー事業者、市町村、南信州地域交通問題協議会	—	・バス、乗合タクシーの運行ダイヤと物流事業者の集配・配達とのマッチングが難しいという課題はあるが、実現の可能性に向けて研究・検討を進める。	・H29、30年度、ヤマト運輸と導入に向けた調整を図るが、マッチングが困難となり、検討が中断。 ・H31年4月～乗合タクシー遠山郷5路線(遠山郷線、上村線、須沢線、下栗線、上島線)、八重河内線、平岡線での貨客混載の実施
	タクシーを活用した新たなサービスの実施	タクシー便利屋(買い物代行、病院への診察申し込み・薬取り・順番取り等)、緊急救援システム等の救援事業、及びタクシー事業者による食料・飲料のデリバリー・出前等の研究を行い、必要に応じて導入を進める。	タクシー事業者、南信州地域交通問題協議会	—	・関係組織と研究・検討を進める。	・R2年度、タクシー協会下伊那支部に加盟する9社による「南信州助け合いタクシー(貨物輸送(デリバリーサービス))」の実施
(キ) 二次交通対策	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善	昼神温泉へ運行する基幹路線である駒場線を、既存路線を活用した二次交通路線としても位置づけ、来訪者に使いやすい見直しを行う。 【例】昼神温泉発着便の増便、分かりやすい路線名の検討、リニア開業を見据えたリニア駅への延伸等	阿智村、飯田市、飯田市地域公共交通改善市民会議、南信州地域交通問題協議会	—	・関係組織と研究・検討を進める。	
	リニア駅開業に合わせた路線の見直し	リニア開業後の二次交通に関し、リニア中央新幹線長野県駅(仮称)と主要な交通結節点であるJR飯田駅とをシームレスに結ぶ複数路線について、既存路線の再編を含めた見直しの方向性について検討する。	飯田市、飯田市地域公共交通改善市民会議、南信州地域交通問題協議会	—	・関係組織と研究・検討を進める。	
	観光タクシーの普及	タクシーを活用した観光ルートについて、地域連携DMOである(株)南信州観光公社と連携し、既存の2ルートの本格運用を図るとともに、新たなコース設定も行い普及を進める。	タクシー事業者、(株)南信州観光公社、南信州地域交通問題協議会	—	・関係組織と研究・検討を進める。	
(ク) 新技術への対応	GTFS-JPの導入	観光利用が想定される路線を中心に、基幹路線・准基幹路線・観光特化路線に標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)の導入を進める。翻訳情報の付加についても検討する。	南信州地域交通問題協議会(南信州広域連合)	983,000	・市町村担当者や交通事業者を参集し講習会を開催する。 ・基幹路線、准基幹路線、観光特化路線、また支線(希望路線のみ)も含めてGTFS-JPの導入を行う。	
	自動運転の研究	自動運転は、当地域においても短期間の実証実験が実施された経緯もあることから、将来的な実用化に向けた取組みを引き続き実施する。	南信州地域交通問題協議会、市町村、交通事業者	—	・関係組織と研究・検討を進める。	・平成30年11月に飯田市で実証実験(KDDI)
	シェアリングによる乗合タクシーの活用	利用者にとって低廉な料金で利用可能となるタクシーの相乗りについて、国の動向を見つつ、導入に向けた取組みを進める。	タクシー事業者、タクシー協会、南信州地域交通問題協議会	—	・関係組織と研究・検討を進める。	
(ケ) その他	災害時等の運休に対する対応	災害時等のJR飯田線、バス路線等の運休に対して、各市町村の防災計画と連携し、情報収集、連絡体制等の体制を備える。	市町村、交通事業者、南信州地域交通問題協議会	—	・関係組織と研究・検討を進める。	
	新型コロナウイルス感染症対策事業費	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、公共交通の利用者は著しく減少しており、このままでは地域公共交通の維持が脅かされる恐れがある。一方で、各交通事業者においては、安全・安心な運行に加え、新しい生活様式に移行する中で安心して利用できるよう、感染防止のための様々な取組みを実施している。これらの取組みを住民に周知し、公共交通利用への回帰を促す取組みを行う	南信州地域交通問題協議会	150,000	・地域住民(特に公共交通利用者)に対し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた事業者支援等を想定	
	高齢者おでかけ促進事業	免許返納後の移動支援対策となるよう、公共交通の乗り方、使い方が分からない、不安という高齢者に対して、お住まいの地域から行ける病院や買い物施設を案内する手法等をはじめ、外部知見者をファシリテーターとして招いて協議、模索する。	南信州地域交通問題協議会、市町村、交通事業者	500,000	・外部知見者を含め、ワークショップを数回開催し、分析検討協議の上試験的に進めていく。まず、一部エリアよりモデルとして試験的に進めていく。	

## 令和4年度 南信州地域交通問題協議会 収支予算(案)

収入金額	2,700,000 円
支出金額	2,700,000 円
差引残額	0 円

(収入)

(単位:円)

科目	R3予算	R4予算	比較増減	備考
負担金	2,172,000	1,517,000	△ 655,000	南信州広域連合負担金
繰越金	327,627	1,182,921	855,294	R3年度繰越金
借入金	0	0	0	
諸収入	373	79	△ 294	
計	2,500,000	2,700,000	200,000	

(支出)

(単位:円)

科目	R3予算	R4予算	比較増減	備考
運営費	344,000	297,000	△ 47,000	
報償費	225,000	198,000	△ 27,000	講師・委員等報償費
旅費	119,000	99,000	△ 20,000	講師・委員等旅費
需用費	30,000	50,000	20,000	
消耗品費	30,000	50,000	20,000	事務等消耗品
役務費	20,000	40,000	20,000	
通信運搬費	10,000	30,000	20,000	通信運搬費、振込手数料
使用料	10,000	10,000	0	出張時駐車場使用料等
事業費	2,106,000	2,313,000	207,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結節点停留所デザインの統一化 400千円</li> <li>・ 公共交通ポータルサイトによる情報発信 120千円</li> <li>・ 高齢者のおでかけ促進 500千円</li> <li>・ メディア活用による利用促進 110千円</li> <li>・ 公共交通に親しむイベントの開催 50千円</li> <li>・ GTFIS-JPの導入 983千円</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症対策事業 150千円</li> </ul>
計	2,500,000	2,700,000	200,000	

予算の執行上必要があるときは、科目間の流用ができるものとする。